

2018年6月19日

顧客本位の考えをさらに進めると、投資リテラシーの観点によるファンド分類が求められる

- 個人がファンドを選ぶ際には、自分が受け入れ可能な価格変動リスクかどうかを確認するのが一般的だ。
- 顧客本位の考えをさらに一歩進めると、投資リテラシーの観点から、顧客にふさわしいファンドかどうかの情報も活用したい。
- 定量面では主要資産を代表する価格の動きとの乖離、定性面ではファンド分類を用いることで「理解しやすいか」「価格の動きに差異が出るか」「潜在リスクが潜んでいないか」を確認したい。

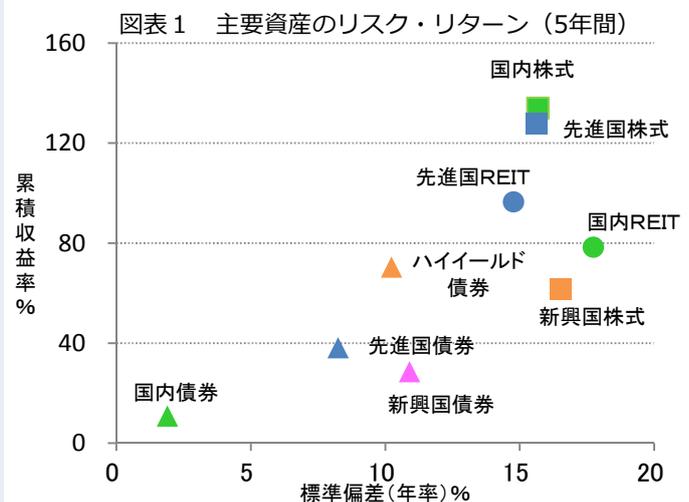


シニアファンドアナリスト 勝盛

1. 自分にあった価格変動リスクかどうかを確認する

一般的に、私たちが投資信託を考えるときには分類を用いる。何らかの物差しでファンドを分類しなければ、5千とも言われる膨大なファンドの特徴を掴むこともできなければ、投資するファンドを絞り込めない。その際に当たり前のように用いられているのが、ファンドが組み入れる投資対象資産による分類だろう。株式や債券、REITなどの資産がそれに当たる。なぜかといえば、特定の資産に投資するファンドが多いことに加え、資産ごとに期待される収益性や価格の動き、また、どのようなリスクがあるのか、その違いを示すものとして適しているからだ。

投資信託の販売用資料においても、国内株式、国内債券、外国株式などに分けて、リスク・リターンの図表を掲載している（図表1）。これを用いて、多くの場合、自分が受け入れることができるリスクに見合った価格変動リスクのファンドかどうかを確認するためだ。販売サイドでも、価格変動リスクの大きさによって顧客が想定外のリスクに直面しないように、ファンドの販売時に配慮する。では、個人が投資を行う際に注意しなければならないことは、それだけだろうか？

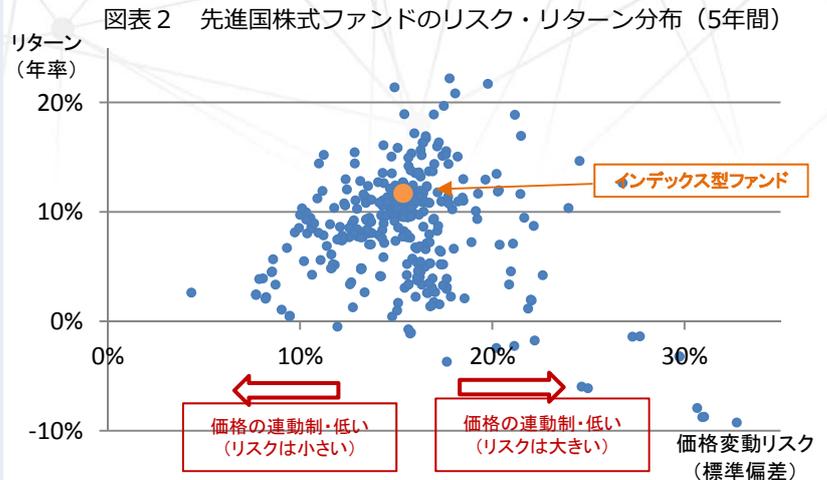


2. これからは、投資リテラシーの観点による分類も意識したい

投資のリテラシーが低い個人への資産形成への啓蒙において、もう一つ考えてもらいたいこと、それは個人のリテラシーに適ったファンドであるかという点だ。たとえば、個人が外国株式のファンドに投資したと漠然と思っていても、実際にファンドの基準価額が一般的な外国株式ファンドのそれと同じように動くとは限らない。特定の地域に特化したファンド、テーマ型の中でも限られた業種に投資するファンドではそういった傾向が強くなる。

図表2では、さきほどと同様の基準で、外国株式に投資するファンドのリスク・リターンの分布を示している。同じ外国株式に投資すると謳っているファンドでも、価格変動も違えばリター

ンの水準にも大きくばらつきがある。図の真ん中に大きな●で示しているところが、グローバルに外国株式に投資をするインデックス型ファンドだ。一般的な外国株式と同じような価格の動きをするものなのかを確認するために数字で定量的に捉えるならば、インデックス型ファンドとのリスク水準の違いをレーティング等で示してあげればよいだろう。



3. 投資のリテラシーを考えると、定性的な分類情報も活用したい

ただ、価格変動のリスクは、いつも同じように表れるとは限らない。普段は落ち着いた価格の動きをしているようでも、市場の流動性が低下すると、一気にリスクが顕在化し価格が急落する可能性があるものも存在する。例えば、債券ファンドに属するハイブリッド証券は、数十年に一度はそういったことが起こると言われている。そのため、定性的な視点による確認も有効だろう。

リテラシーの観点からみた場合、ファンドの特徴は大きく3つに分けることができる。それは、①理解しやすいか、②価格の動きに差異が出るか、③想定外の価格の動きや大きなリスクが潜んでいないかだ。これらはファンドの分類を用いることである程度は確認できる。今回は紙面の関係上ここまで止めておくが、弊社のファンド分類を用いて、図表3に簡単な例を示しておく。

顧客にファンドを提案する場合、顧客のリスク許容度に見合ったリスク水準かどうかを確認すると共に、顧客のリテラシーに則したファンドであるかどうかを定量・定性面で確認して販売することにより、信頼感をより高めることに繋がるはずだ。

図表3 投資のリテラシーと注意すべきファンドの組み合わせ

リテラシー		投資対象地域・国	投資対象資産	商品性
理解しやすいかどうか	株式・REIT	○	○	△【経験者向け】 資産や通貨にオプションなどが付いているもの
	債券	○	△【経験者向け】 ハイブリッド証券、バンクローン、BDC、MLPなど（注）	
価格の動きに差異がでるかどうか	株式・REIT	△【経験者向け】 特定の新興国への投資	△【経験者向け】 中小型、テーマ型ファンド	△【経験者向け】 資産や通貨にオプションなどが付いているもの
	債券		△【経験者向け】 ハイブリッド証券、バンクローン、BDC、MLPなど（注）	
想定外の動き、潜在リスクがあるかどうか	株式・REIT	△【経験者向け】 特定の新興国への投資	○	△【経験者向け】 資産や通貨にオプションなどが付いているもの
	債券		△【経験者向け】 ハイブリッド証券、バンクローン、BDC、MLPなど（注）	

※ ○はおおむね問題なし、△は注意すべきファンドもあることを示している

※本レポートにおける公募販売ファンドは、ETF、ラップ専用、DC、公社債投信を除く、追加型投資信託を対象としている。

(注)

BDCとは、Business Development Companyの略称で、米国において1940年投資会社法を根拠法として設立された中堅企業や新興企業等の事業開発を金融面及び経営面からサポートする投資会社をいう。

MLPとは、マスター・リミテッド・パートナーシップの略称で、米国で行われている共同投資事業形態をいう。主な投資対象となるのは石油・天然ガスの精製、備蓄、輸送(パイプライン)施設などインフラに関わる事業。

- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。

【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリスト・グループ

標・吉田・福本・勝盛

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会